

2026年度シティカレッジ シラバス

提供機関開講科目(広域単位互換ネットワーク提供科目)

提供機関: 石川県立大学

開講時期: 前期

合同開講他機関名: 株式会社ユニベル

科目名		能登復興学実践論 ―人と繋がり、未来を共創する―						
英文科目名		Noto Recovery Practicum: Connecting with Communities to Co-create the Future						
その他履修上の注意事項		履修上の注意 本講義は、大学コンソーシアム石川の単位互換制度を利用するものです。所属大学が本コンソーシアムの広域連携の対象であるか、各自で確認してください。 上記対象外の学生も履修は可能ですが、単位認定は行われません。プログラムの全課程を修了した学生には、石川県立大学および株式会社ユニベル連名の修了証明書を発行します。これを所属大学に提出し、単位認定を申請することは可能ですが、認定の可否は所属大学の判断に委ねられます。 現地フィールドワークへの参加は必須です。 現地までの交通費および滞在費は、自己負担です。詳細は履修確定者に別途通知します。別途負担費用の15,000円はこの費用の一部となります。						
授業形態	対面授業、オンライン授業、対面・オンライン併用			対面・オンライン併用	開講期間	2026/4/13(月)～7/31(金)		
	復習用ビデオの録画・配信							○
担当教員		山下良平			開講時間	17:30～19:00		
受講定員等	単位数	2		単位	開講場所	石川県立大学に確認		
	定員数	20		名				
	科目等履修生定員	2		名	成績評価方法・割合	①事前・事後課題(20%)事前課題「キーパーソンへの理解」、事後課題レポートの内容。他者への想像力と、自己の内省の深さを評価する。 ②現地活動への貢献度(50%)キーパーソンや仲間との対話への積極性、ワークショップでの主体的な関与、チームへの貢献度を評価する。 ③最終プレゼンテーション(30%)「私の挑戦宣言」の内容。体験を通じて得た学びが、自身の未来のアクションに具体的に結びついているかを評価する。		
	広域単位互換生定員	若干		名				
	定員超過時の選考方法等	提出された志望理由書(300文字)を基に、学習意欲や本プログラムへの貢献度を総合的に判断し選考します。						
授業料等	広域単位互換生				科目等履修生(社会人で単位を必要とする者)			
	検定料	入学料	授業料	別途負担費用	募集期間: 2月1日～2月28日			
					検定料	入学料	授業料	別途負担費用
				15,000円	9,800円	28,200円	29,600円	
<p>【講義概要】 本講義は、ユニベル社が全国で展開するCampus Everywhereフィールドワークの手法を導入した新しい形のPBLプログラムである。単に地域課題を分析するのではなく、能登の復興を支える一人のキーパーソン(ターゲット)に徹底的に向き合い、その人生、想い、夢に深く触れることを通じて、参加者一人ひとりが自らの生き方と社会との関わり方を見つめ直す機会をつくる。この濃密な他者との対話と内省のプロセスこそが、多様な人々の間に立ち、信頼を基に対話と協働を促進する中間コーディネーターの核となる資質を育むと考える。全国から集う仲間と共に、日常から離れた能登の地で、移動し、繋がり、自らの次なる一歩(挑戦)を始める。そのための理論と実践を往還するプログラムである。 【到達目標】本講義の履修を通じて、学生が以下の能力を身につけることを目標とする。 1. 能登の復興の現状と課題を、現地で活躍するキーパーソンの視点を通して、自分自身の言葉で多角的に説明できる。 2. 多様な人々の想いを繋ぎ、協働を創出する中間コーディネーターの役割の重要性を、実体験に基づいて理解し、そのために必要なコミュニケーションと内省のスキルを体得する。 3. キーパーソンとの対話を通じて自己を深く見詰め、自分とその人との共通点・相違点を分析し、自らの価値観や強みを言語化できる。 4. 本プログラムでの学びを踏まえ、自らが今後挑戦したいことを具体的なアクションプランとして設定し、他者に明確にプレゼンテーションできる。</p>								
科目の内容	【講義概要】 本講義は、ユニベル社が全国で展開するCampus Everywhereフィールドワークの手法を導入した新しい形のPBLプログラムである。単に地域課題を分析するのではなく、能登の復興を支える一人のキーパーソン(ターゲット)に徹底的に向き合い、その人生、想い、夢に深く触れることを通じて、参加者一人ひとりが自らの生き方と社会との関わり方を見つめ直す機会をつくる。この濃密な他者との対話と内省のプロセスこそが、多様な人々の間に立ち、信頼を基に対話と協働を促進する中間コーディネーターの核となる資質を育むと考える。全国から集う仲間と共に、日常から離れた能登の地で、移動し、繋がり、自らの次なる一歩(挑戦)を始める。そのための理論と実践を往還するプログラムである。 【到達目標】本講義の履修を通じて、学生が以下の能力を身につけることを目標とする。 1. 能登の復興の現状と課題を、現地で活躍するキーパーソンの視点を通して、自分自身の言葉で多角的に説明できる。 2. 多様な人々の想いを繋ぎ、協働を創出する中間コーディネーターの役割の重要性を、実体験に基づいて理解し、そのために必要なコミュニケーションと内省のスキルを体得する。 3. キーパーソンとの対話を通じて自己を深く見詰め、自分とその人との共通点・相違点を分析し、自らの価値観や強みを言語化できる。 4. 本プログラムでの学びを踏まえ、自らが今後挑戦したいことを具体的なアクションプランとして設定し、他者に明確にプレゼンテーションできる。						その他特記事項(テキスト・教材参考書等)	
	【参考図書・推奨図書】 高橋博之著『関係人口～都市と地方を同時並行で生きる～』光文社新書 友成真一著『問題は「タコつぼ」ではなく「タコ」だった!?「自分経営」入門』ディスカヴァー・トゥエンティワン							
授業日程・スケジュール	【フェーズ1: オンライン事前学習】 第1回(オンライン): キックオフ講義の全体像とフィールドワークの進め方を説明。能登の現状をインプットすると共に、事前課題「能登のキーパーソンを考える」を発表 第2回(オンライン): 理論武装: 中間コーディネーターとは何か 中間コーディネーターの役割とスキルを理論的に学ぶ。ゲスト講師(行政・企業)を招き、多様な視点をインプット。 【フェーズ2: 現地フィールドワーク(1泊2日) 5月30～31日】 第3回(現地 Day1) 出会い、聴き、自分と向き合う 午前: 現地集合、アイスブレイク、被災地の視察 午後: 【メインセッション】お話し1「キーパーソンの人生と、能登への想い」。 夜: 【リフレクション】ワークショップ「私とあの人の似ている点、違う点」。 第4回(現地 Day2): 繋がり、考え、挑戦を宣言する 午前: お話し2「キーパーソンの夢と、これからの挑戦」。 午後: プレゼン大会「私の挑戦宣言」 【フェーズ3: 事後学習】第5回(オンデマンド): 事後課題レポートを提出。「私が出会ったキーパーソンはこんな人」「このプログラムで考えたこと」「今後の私の挑戦」を言語化し、学びを定着させる。(本レポート提出をもって全課程修了とする)							
	授業担当教員紹介		URL	<a href="https://www.ishikawa-pu.ac.jp/staff/staffname/yamashita-ryohei/">https://www.ishikawa-pu.ac.jp/staff/staffname/yamashita-ryohei/</a>				
ホームページ・メールアドレス等		E-mail	<a href="mailto:r-yama@ishikawa-pu.ac.jp">r-yama@ishikawa-pu.ac.jp</a>					
その他								